

# ある日突然、 子宮頸がん。

## 第三話

# 「奮闘」



かわむら ひろみ  
河村裕美さん

NPO法人オレンジテイ理事長  
静岡県庁に勤めるかわむら、自らの子宮頸がんの体験をもとに、女性特有のがんの患者を支援するNPO法人「オレンジテイ」を設立し、患者や家族の悩みを分かち合う場を提供。子宮頸がんの啓発活動に取り組んでいる。

私は腸閉塞を併発したため約1カ月入院しましたが、頸がんの手術入院は通常2週間ほどです。実は、闘病中よりも退院後の方が、衝撃の日々でした。

まず体力が落ちて一人では通院できず、しばらくは夫に付き添ってもらい受診していました。そして大変なのが後遺症です。今私はトイレに行きたいという感覚がなく、自分で時間を見て調整するしかありません。最初はタイミングがわからず漏れてしまったり、膀胱炎を繰り返しました。私は静岡県庁に勤めています。今まで広報やイベントなどの仕事をしていましたが、こうした仕事をしながら排尿問題をクリアするのは、なかなかの苦勞でした。また女性ホルモンの値が極端に下がり、32歳にして更年期障害に悩まされるようになりました。顔のほてりやめまい、イライラ。肌や爪、髪の毛がボロボロになってしまいうのも、女性として悲しいものです。

特に厄介なのがリンパ浮腫、いわゆる『むくみ』でした。放っておくと私の左足はどんどん太くなるので、毎日マッサージをして、日中は強力に引き締めるストッキングをはきます。約2万円と高額なうえ、汗をかく夏場は、はくのひとと苦勞。何枚か洗い替えを用意して、伸びたらまた買って、それが一生涯続くのです。症状が進むと3万円、4万円とさらに高いものがが必要です。

いずれにしろ闘病中は考える余裕もなかったのですが、家にひとりしていると、もう子どもは産めないという絶望感や再発の恐怖などで気が狂いそうでした。それで職場には迷惑をかけると思いつつ、2カ月で仕事に復帰。頑張って仕事をしていると楽しくて、生きていることを実感できるのです。入院中の守られた環境と違って、退院後は誰も何も教えてくれません。こんな気持ちを分かち合い、体験者同志で情報交換できる場所が欲しい。それが「オレンジテイ」設立のきっかけです。

※第一話～二話はふくいキレイ女子大のホームページ(下記)でご覧いただけます。



健康でキレイなわたしに  
ふくいキレイ女子大

www.kirei-univ.com 検索

「ふくいキレイ女子大」は、キレイと健康を学べるカリキュラムを展開中です。

□主催／福井新聞社 □後援／福井県、福井県医師会、福井県産婦人科医師連合、福井県看護協会、福井県健康管理協会、福井商工会議所、敦賀商工会議所、武生商工会議所、大野商工会議所、勝山商工会議所、小浜商工会議所、鯖江商工会議所、NPO法人オレンジテイ、NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会

(お問い合わせ) 福井新聞社営業局 kirei-univ@fukuishimbun.co.jp

